

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：ベトナム）実践報告書

埼玉県立上尾橋高等学校
大島 幸

タイトル：Broaden Your Horizons ～自分の世界を広げよう・意識しよう～

実践教科：英語、LHR、学校行事（時間数：5時間（+α））

対象生徒・学年：高校3年生

対象人数：129名

カリキュラム案

(1)実践の目的

英語教育において「国際理解」というと、「外国人と英語でコミュニケーションを図ろう」という面で語られることが多い。しかし本校には、英語でのコミュニケーションはおろか、日常生活において人間関係を広げたり、新しいことに挑戦したりすることに困難な生徒も多く見受けられる。そこでベトナム理解を出発点に、自分の文化・異文化の存在を意識し興味を持ち、改めて「自分の世界を広げる」ことの重要性を感じさせる一助としたい。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 7/13 ＜英語＞ 自国・他国の文化に気づき、意識する機会とする。	(1)国あてゲーム (2)生徒の意識調査（対ベトナム・日本） (3)日本の PR 広告作成	(1)～(3)プリント使用
教師海外研修に参加（資料収集、ベトナム人の意識調査、PR 広告活用など）		
2・3 限目 9/28, 9/29 ＜文化祭準備＞ 文化祭で、ベトナムを紹介するミニブースを作る。	(1)廊下の一角にガラスケースを配置。 (2)ベトナム民族衣装・地図・写真・現地で集めた資料などを展示し、通りかかった人が見て分かるように作成する。	・現地で収集した衣装、地図、写真、その他資料
＜文化祭中＞9/30, 10/1 ミニブース展示	・在校生だけでなく、文化祭に訪れた一般の方にも、ベトナムを知っていただく。	・現地で収集した衣装、地図、写真、その他資料
4 限目 10/6 ＜LHR：学年集会＞ ベトナムについての話 ※JICAの方が来校	・視覚に訴えるようパワーポイントを使い、生徒とのやりとりの中で進行する。 ①ベトナムの概要 ②ベトナムの学校教育について ③ベトナムでの外国語学習について ④ベトナムと日本との関わりについて ⑤自分の世界を広げるために……	・プリント使用 ・現地で収集した民族衣装、食品、漫画など ・研修中に集めたベトナムの人々からのメッセージ ・ベトナムの小学生のアンケート結果
5 限目 10/27 ＜LHR＞ 「ベトナムについての話」 フィードバック	・学年集会（4 限目）で生徒から集めた感想、青年海外協力隊員の方からのメッセージを紹介し、振り返りを行う。	・プリント使用

＊授業実施の流れ＊

1 限目：英語（オーラルコミュニケーションⅠ） <海外研修 事前授業>

各国のイメージ画を用いた国あてゲーム、生徒の意識調査、日本の PR 広告作成を実施。生徒は自分の文化や異文化への「知識のなさ・関心の低さ」を実感したようだ。しかしそれ以上に、英語やコミュニケーションに関心の持てない生徒にとって、「今作っているものが、実際に外国に行く」という実感を伴った活動は、興味を喚起するのに非常に有効であった。「先生、この絵じゃ日本の変なイメージを与えちゃうよ」「ベトナム語で挨拶を書きたい」等、異文化を見すえた発言が出るようになった。



生徒の作成した日本のPR広告

海外研修中

レリア（実物教材）収集の他、ベトナムの人々が持つ日本のイメージを聞き取り調査した。日本のPR広告は高校生との交流で使用し、日本の生徒へのメッセージも得られた。

2・3 限目：文化祭準備 <ベトナム紹介ミニブースを作る>



事前授業（1限目）の効果か、帰国後「先生どうだった？」「英語は通じるの？」等の声が生徒から多く寄せられた。そこで第1段階として、文化祭に向け、ベトナムを紹介する展示を、担任しているクラスの生徒と作成することとした。

通常、勤務校の制服を展示しているガラスケースを移動し、現地で収集した民族衣装・地図・教科書・書籍・インスタント食品等を配置した。また、その付近に現地で撮影した写真をコメントつきで印刷し、生徒に選ばせて掲示した（左写真、資料A参照）。

生徒はクラス発表や部活動の出し物等、各準備の合間をぬって展示作成に参加してくれたが、「このお菓子、日本語の名前だ！」「ベトナム人と日本人って、見分けつかないよね」等、興味を持って作業する姿が見られた。文化祭期間中は、来校者に「これはベトナムの衣装で……」と紹介してくれた生徒もいた。



4 限目：LHR <学年集会で、ベトナムについて学ぶ>

文化祭で“ベトナム”がある程度浸透したところで、JICAから国際協力推進員の方にお越し頂き、学年集会で話をする機会を設けた。

話の構成は「一般的な概要（地理・通貨・食生活等）、学校教育、外国語学習、日本との関わり」を紹介した後、生徒一人ひとりが「自分の世界を広げる」ことについて考えてもらえるよう組み立てた。現地で撮影した多くの写真を取り入れたパワーポイント資料（資料B参照）を作成し、集会中は生徒に多くの質問を投げかけながら授業を展開した。また、生徒が話を聞いてメモができるプリント（資料C参照）を準備し、感想記入の後、提出させた。

開始時、アオザイを着て登場すると、「着てみたい」という女子生徒の反応と「ズボンがあるのか？（チャイナドレスと混同）」という男子生徒の声。注意をひくには十分な効果を発揮した。





生徒は、概して1つ1つの話に敏感に反応していたが、こと日本語学習など、日本との関わりについては、「日本とベトナムの関わりがこんなにあるんだなあと思った（生徒感想）」と驚いていたようだ。特にベトナムの小学生の持つ日本のイメージには、「自分よりかなり年下なのに、外国のことを良く知っていて、何だか自分が恥ずかしい気がした（同）」と印象深かった様子である。また、日本のPR広告に対するベトナムの高校生からのメッセージ等、研修中に出会った人々からのメッセージも効果的であった。英語で頂けた為、そのまま紹介したところ、視線がスライドに集中した。自分へのメッセージが来たことで、遠い存在のベトナムが、急に身近になった生徒も多かったようだ。

寄せられた感想は、主に以下の4点にまとめられる。

- ①今まで知らなかったベトナムのことが良く分かった。
- ②ベトナムに興味を持ち、行ってみたいと思った。
- ③ベトナムが日本と深く関わっていることに驚いた。
- ④ベトナムだけでなく、外国に興味を持った。外国の人と話してみたい。

好意的な感想が圧倒的に多く、また一連の授業の目的を感じ取ってくれた生徒も多数見られたのは、大きな収穫であった。一例として、幾つかを載せておく——「外国の人って、そんな自分から話しかけるとか絶対しなさそうって思ったけど、そうじゃなかったんだって知って、行ってみたいと思います」「ベトナムという国に関係なく、世界の国々に興味を持つことは素晴らしいことだと思います」「もっと世界に目を向けなきゃと思った。日本のことをもっともっと知ってもらいたい。その為には、自分が日本のことをもっともっと知らなきゃなと思う。私は他の国、特に発展途上国は偏見の目で見ている。でも話を聞いて、ベトナムに限らず、他の国をもっと理解して、文化に触れていきたいと思った」

5 限目：LHR <ホームルームで、学年集会の話を振り返る>

学年集会で集まった多くの感想をプリントにまとめ、3学年の各クラスで振り返りを行った。学年集会後、海外研修中バクザン省でお会いした青年海外協力隊員の戸田直之氏からもメッセージを頂き、掲載できた。改めて、ベトナム（→世界）と日本が近い存在であること、自分たちの知らないところで日本が世界と大きくつながっていることを印象づけ、生徒に当事者意識を持たせることができたように思う。またその後開催される国際フェアの告知をし、学校内にとどまらない国際交流・異文化理解の機会を伝えた。

今回の実践は「意識しよう！」にとどまったが、生徒の意識に変化が生じたことは確かであろう。生徒が将来何らかの形で「自分の世界を広げる」素地となれば幸いである。

資料

資料A：文化祭展示に使用した写真の一部



ハノイ市内



バクザン省で



イエンバイ省で



道端で散髪&耳掃除



ハノイの小学生



制服を着た高校生

資料B 学年集会で使用したパワーポイント資料の一部 (全 33 スライド中)

○場所？
* 面積：日本の約90%
* 首都：ハノイ

○民族は？
キン族が90%
53以上の少数民族

★町中に見られる日本文化

2-2. ベトナムの学校教育

○ 概要

- 小学校5年→中学校4年→高校3年
- 2000年より、小学校5年生まで義務化 (6~14歳の間に小学校に行く)→就学率98%
- 都市部と農村部の差

100% 学校は1日

学校に行けない子もいる。学校は半日、午後は労働。(1日の所もある)

○ 問題点・今取り組んでいること

① 施設・教材不足

- 校舎がコンクリート・レンガでない (ベトナム戦争の影響)
- 体育、音楽、美術の道具がない
- 机、いすが足りない

皆の"意識"と比較しよう

「日本と言えば・・・である。」

ベトナムの小学生 (ハノイ、ティン・クアン小5年生)

- ・経済発展国、先進国
- ・情報技術産業が発展している。
- ・ロボットをたくさん作っている。
- ・質の良い日用品を作っている。
- ・アメリカから広島に原爆が投下された。
- ・桜と富士山がある国。

どう感じますか？

ベトナムからのメッセージ~2~

To students:
I'm very happy when I know that Sachii is going to talk to you about her experience in Vietnam. I hope that you will know more Vietnam. Vietnamese is friendly. We hope that you will come Vietnam as soon as possible.

Broaden Your Horizon

October 6th, 2005

Class _____ No. _____ Name _____


はじめに...Question

1. 外国に行きたいですか?
2. 外国の人々を認めますか?
3. 外国に...「英語」は必要だと思いますか?

Yes/No
Yes/No
Yes/No

ベトナムの学校生活について

- 小学校・中学校・高校はそれぞれ何年間?
- ベトナムの学校は、日本の学校と何が異なるか?
- その他、何事か書き込んでください。





ベトナムで使われている通貨は?

- 通貨は? (円やドルなど) →
- 民族は?
- 道徳は?
- 食文化は?
- どのような習慣を見られますか? 何事か書き込んでください。

ベトナムの外国語学校について

- ベトナムで使われている外国語の種類は? これを習い、何が出来るか、思っていることを自由に書いて。 Ex: 英語, English.

1. Complete the dialogues.

a) Customer :?
Salesgirl : 40,000 dong.

b) Customer :?
Salesgirl : That is 150,000 dong altogether.

c) Customer : to mail?
Clerk : 15,000 dong.

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：ベトナム社会主義共和国）実践報告書

埼玉県立蕨高等学校
千國 徳隆

タイトル：ベトナム民話からのアプローチ
実践科目：現代文（時間数：3 時間）
対象生徒：外国語科 2 年 9 組
対象人数：41 名

指導実践

(1) 目的

今回の研修で、我々が宿泊したハノイのホテルでの朝食。

アメリカ人観光客が多い日には、パンとサラダと卵・ハム料理といったアメリカ人の好みそうな朝食メニューが、中国人観光客が多い日には、お粥、饅頭、蒸し菓子といった中華料理メニューがバイキング方式で供された。

社会主義の中でのドイモイ政策を受けて、と考えるとしまえばそれまでであるし、外貨獲得のためには当然とも言えるのだが、私はそのメニュー 1 つにもベトナム人のしたたかさと逞しさを強く感じた。我々日本人の目からするとかなり横柄な態度のアメリカ人観光客への対応もまったく如才ない。

中国、フランス、日本、アメリカと本当に長い歳月を他国の影響下で過ごしたベトナム民族の、民族としての不屈の精神、底力がどこから来るものなのか、すこぶる単純な好奇心が沸く。

多くの昔話、民話を読むことで、その一端に触れることができるのではないかと。授業として取り上げることで、生徒諸君が日本、ベトナムの昔話の根幹に触れ、かつ、人類としての普遍性と民族としての独自性とに気付く契機になるのではないかと。これが今回の授業実践の契機である。

世界各国に伝えられる昔話・民話は、時を越えて語り続けられ、我々を魅了し続けている。時代や状況に応じ、外形を少しずつ変えながらも、その根幹部分は不変と言って良い。人類としての普遍性と民族としての独自性とを併せ持つからこそ、時を超える力を持つものと考えられる。そこには、フロイト、ユングの用いた「潜在意識」・「深層心理」、仏教の「マナ職」・「アラヤ職」、あるいは丸山真男の用いた「民族の古層」に通底するものが存在しているはずである。

現在の日本の高校生の大半は、昔話を語られた経験をほとんど持たず、読書習慣もほとんどない。日本の昔話さえ、ほとんど知らない。もちろん、ギリシャ神話も聖書も知らない。

表層的な知識、表層的な差異の認識の獲得だけでは他者との本質的な関係性を持つことは出来ないものとする。

母国の昔話を読み、かつ世界各国の昔話に接することで、人類としての普遍性と民族としての独自性とに気付き、かつ、その理解を深めて欲しい。

今回、ベトナム民話のひとつを教材として取り上げ、2 つの日本語テキストと 1 つの英語テキストとの計 3 つのテキストを読み比べることで、物語の面白みを味わいながら、同時に物語の構成を学び、かつ、人類としての普遍性と民族としての独自性とを考える契機としたい。

この教材は、昔話というより世俗説話に分類されるものであろうが、登場人物とその行動とが何とも魅力的であったので、今回の授業で取り上げることにした。

(2) 授業構成

使用教材

“VIETNAMESE LEGENDS” `THE MOSQUITO`

George F. Schultz, CHARLES E. TUTTLE CO., 1965

『ベトナム民話～民族の英雄と恋と知恵～』より「人間の血を吸う蚊の由来」

(池田よしなえ編、三省堂新書 21、昭和 43 年)

『ベトナム民話集』より「蚊と三滴の血」

(矢野由美子編訳、現代教養文庫 962、昭和 54 年)

1 時限 導入、通読、初発の感想、問題提起

- a “VIETNAMESE LEGENDS” `THE MOSQUITO`、『ベトナム民話～民族の英雄と恋と知恵～』より「人間の血を吸う蚊の由来」、『ベトナム民話集』より「蚊と三滴の血」の3種のテキストを指名して音読させる。その後、初発の感想、3種のテキストの比較を尋ねることを告げて黙読させる（一定の時間を与える）。
- b 指名して初発の感想を尋ねる（7～8人を指名。漠然とした発言・感想には、より具体的な方向性を持つよう授業者が誘導する。但し、方向性を付けるのみとし、結論を導き出すことはしない）。
- c 挙げた感想を授業者が改めて紹介・提示する。また、挙げた感想以外に必要な検討事項を授業者が紹介する。
- d 5～8人のグループに分かれ、各自自分の感想を簡単に発表し、今後何について考えてゆくのかをグループごとに考えさせる（各グループに、班長・書記・発表者を決定させる）。

2 時限 グループ討議、問題解決

- a 各グループで、それぞれ解決する問題を討議により決めさせる（グループ間で同一の問題を選択しても、その調整はしない。同一の問題解決を複数のグループが担当するほうが違いが現れて面白い授業となるはずである）。
- b 問題解決のための研究討議（次回はグループごとに発表することを予告する）。

3 時限 発表、まとめ

- a グループごとに問題を提示し、グループでの成果を発表させる（全員の協力体制を作るよう指示する）。
- b 各グループの発表について質問、異議等があれば発表させる（同一の問題解決に当たったグループ同士の質問・討議は、面白くなる。授業者は出来得る限りこの討議には参加しない）。
- c すべての発表・討議後、授業者が今回の討議をまとめ、そのほかの問題点等をコメントする。また、参考文献、資料等も授業者が紹介する。

授業中の生徒の様子、授業後の生徒の感想

通常の授業とは毛色の違うものであるし、成績にも評価にも関わらないためか、3時間の授業を楽しんだ様子である。特にグループ討議は活発に行われ、発表は実り多いものであった。最後のまとめの際に、授業者が日本の昔話や、イソップ、グリム、現在の日本のアニメーションにも若干言及したことも生徒にとっては新鮮だったようである。

今回の授業対象は外国語科2年の生徒たちなので、2つの日本語テキストと1つの英語テキスト、計3つのテキストを読み比べることに極端な抵抗を見せなかったし、このようにテキスト間の異同を基に考えていく方法にも好奇心を覚えたようである。

昔話を、幼稚なもの、子供だましのものとする考えは少なくとも払底することはできたとし、昔話の構成の基本的な特徴についても理解できたようである。

物語の持つ力が民族を超えて人間存在の根幹に関わるものであるということに気付く契機としては十分であったように感じている。

今後の課題

今回は、現代文の時間3時間を使い、1つの話を授業で取り上げ、もう1つをプリントして生徒諸君に配っただけである。

機会を作り、継続的に行なうことで、生徒の理解はより進むものと考えられるが、通常のカリ

ユキュラムの中で継続的に授業実践することは難しい。どこに機会を見つけ、継続的な構築をしてゆくかが大きな課題である。

また、ベトナムの民話・昔話の類の書籍はほとんどが絶版になっていて、簡単に入手することが出来なかった。時間と手間をかけて古書店をチェックし、大学図書館等で論文等に当たる必要がある。

参考文献

- 『ヨーロッパの昔話—形式と本質—』 マックス・リュート著、ちくま学芸文庫、1994
『昔話の本質』 マックス・リュート著、ちくま学芸文庫、1994
『昔話の解釈』 マックス・リュート著、ちくま学芸文庫、1997
『昔話の深層—ユング心理学とグリム童話』 河合隼雄著、講談社+α文庫、1994
『絵本と童話のユング心理学』 山中康裕著、ちくま学芸文庫、1997
『グリム童話』 野村滋著、ちくま学芸文庫、1993
『アンデルセン童話の深層』 森省二著、ちくま学芸文庫、1998

資料 テキスト異同補足プリント

『ベトナム民話～民族の英雄と恋と知恵～』の「人間の血を吸う蚊の由来」と『ベトナム民話集』の「蚊と三滴の血」とでは若干のテキストの異同が見られますが、その違いをどのように感じますか。

ア 夫婦に関する表記の違い

「二人ともまだ若く、からだもじょうぶな上に、そろってたいへんきれいな顔、形をしていました」（「人間の血を吸う蚊の由来」）
「とても愛し合っている夫婦がいました」（「蚊と三滴の血」）

イ 夫婦の生活状況

妻の性向→「ふたりがいっしょうけんめいに働くおかげで、貧しかった彼らの生活も日一日と楽になってゆきました」（「人間の血を吸う蚊の由来」）
「二人でいくら働いてもお金はたまらず、いっこうに暮しは楽になりませんでした。」→「夫を尊敬して愛してはいるものの、やはりお金のある人を見ると、自分のみじめな境遇が悲しくなりました」（「蚊と三滴の血」）

ウ 妻の死に際しての夫の様子を表記

「こよなく妻を愛していたタムの心のいたでは、どんなだったでしょう。両の目から大粒の涙を……そしりもしました」（「人間の血を吸う蚊の由来」）
「ゴック・タムは悲しくて三日三晩鳴きつづけました。食事もとらず、片時も妻の死体を自分のそばからはなさず、埋葬もさせませんでした」（「蚊と三滴の血」）

エ 「仙薬を求めて」（「人間の血を吸う蚊の由来」）と「生き返らせる方法」（「蚊と三滴の血」）

……結局「仙薬」とは、妻をこよなく愛する夫の三滴の血であった。

オ 桃源郷？ユートピア？の描写

「彼は山深い地方をさして、川をさかのぼってゆきました。ある時は急流に押し流され、また危険な淵や急流で転覆しそうになりながら、幾日も苦しい旅を続けました。それでもまだ、仙人の国も、妻の命をよみがえらせる仙薬も見つけ出すことはできませんでした。だが、ある朝、小船は不思議な土地に着きました。そこではあたり一面に、この世のものとは思えないよいかおりが立ちこめていて、穏やかに美しい音が流れ、山も野もきれいな花やおいしそうなお実を鈴なりにつけた木でおおわれていました。……」（「人間の血を吸う蚊の由来」）

「妻の死体を小船に乗せてどンドン川を下っていくと、ある日、珍しい草やかおりのよい花が咲きみだれている緑の山が見えるところにやってきました」（「蚊と三滴の血」）

カ 仙人の言葉

「ジェップが生き返ったとしても、前のように、お前のために誠実をつくすだろうか？」「たよりのない欲と歓楽の苦の世界にまどわされて、死んだ妻にこんなにも執着する…はかないものに、あくまで心を奪われるとは…だが、後悔する時が来るかもしれないぞ」（「人間の血を吸う蚊の由来」）

「これだけはよくおぼえておくのだ。今後、おまえの意志でなく何かが起こったとしても、それはやはりお前の過失になるということだ。わかったな」（「蚊と三滴の血」）

キ 妻の蘇生後の仙人の言葉

「ふたりはともに手を取り合って喜びました。そして再び新しい希望に燃えて、元気よくふるさとをさして川を下ってゆくのでした」（「人間の血を吸う蚊の由来」）

「ニャン・ゼップはそばに仙人の姿を見つけると、すぐにひざまずいて感謝しました。仙人は言われました。『わしは、おまえの夫のためにおまえを生き返らせてやったのだ。家に戻ったら、桑を育て蚕を飼って、人の道にはずれることのないように暮らすがよい。』また仙人はつづけてさとされました。『それにじゃ、決しておまえは空のように深い夫の誠実な心を忘れてはならぬぞ。どんな時にもその誠実な心にこたえて暮らすのじゃ。』そうしてゴック・タム達はもう一度仙人にひざまずいて拝むと、船にのって川を下っていきました」（「蚊と三滴の血」）

ク 桑や鋤と貴重な織物、金銀の首飾り、腕輪、そして妻の美しさ

「桑や鋤」⇔「貴重な織物や金銀の首飾り、腕輪」⇔「その（妻の）美しさ」（「人間の血を吸う蚊の由来」）

「金持ちの商人の甘い言葉やお金や宝石に魅せられてしまい、……」（「蚊と三滴の血」）

ケ 夫の申し出を拒絶する妻

『わたしはもう、あのきたならしい小屋で、黒いぼろぼろのご飯を食べながら、どろだらけになって働いてゆかなければならないなんていやです。あなたといっしょに帰りたくはありません。ここに残ります』（「人間の血を吸う蚊の由来」）

「彼が戻るよういくら言っても一緒に帰ろうとしませんでした」（「蚊と三滴の血」）

コ 夫の対応

「おまえの命をよみがえらせた、わたしの三滴の血を返してくれ。どんなにわずかな物でも、わたしの物をけがれたおまえには残しておく気にはなれないのだ」（「人間の血を吸う蚊の由来」）

「おまえは私のためにも戻らないといけないのじゃないのかい。私の三滴の血で、お前を生き返らせてやったんだよ。そのことを忘れたのかい」（「蚊と三滴の血」）

サ 蚊の由来

「あてどもなくさまようその魂は、一ぴきの蚊に化けてしまいました。過ぎ去った日の、夫を裏切り、けがれた行いをした自分を恥じるこの蚊は、太陽の輝く昼間は、どうしても飛び回ることが出来ません。それでも、なんとかしてまたもとの人間になって夫のもとに帰りたくと、夜になると、うるさく人間につきまとい、血を求めるようになったのです」（「人間の血を吸う蚊の由来」）

「この浅はかな女の魂は、この世の縁から切り放されると蚊になりました。そうして至る所を飛びまわっては、自分の過ちを嘆いてぶんぶん鳴っていました。今でも、蚊がいつもぶんぶん飛びまわり人間を刺すのは、もう一度三滴の血をもらって人間に戻らせてもらおうと、ゴック・タムを探しまわっているからなのです」（「蚊と三滴の血」）

平成17年度 教師海外研修 ベトナムコース 研修日程

月日	時間	行 程	宿泊地
8/2 (火)	11:00	成田空港→ベトナム空港	Hoa Binhホテル
8/3 (水)	8:30	事務所オリエンテーション	Hoa Binhホテル
	10:00	教育省表敬	
		昼食	
	13:30	「ベトナム日本人材協力センター」(無償+プロ技)プロジェクトの視察及び概要説明、専門家との意見交換、貿易大学生との交流	
	16:00	盲人リハビリテーションセンターにおける「ベトナム点字図書館運営支援計画」	
8/4 (木)	9:00	ハノイ発	Huu Nghiホテル
	10:30	バクザン省人民委員会表敬	
	11:00	バク・ザン省における技術協力プロジェクト「現職教員研修改善計画」プロジェクト概要説明、専門家との意見交換・質疑応答	
	12:00	昼食	
	14:00	バクザン省教育訓練局表敬	
	15:00	無償資金協力「北部山岳地域初等教育施設整備計画」対象校視察、先生および小学生との交流	
8/5 (金)	8:00	タンディン村の市場視察	Hoa Binhホテル
	8:45	タンディン村人民委員会表敬訪問	
	9:00	タンディン村小学校視察	
	10:00	障害児施設訪問	
	11:00	集落図書館視察	
	11:30	昼食(青年海外協力隊 戸田隊員ホームステイ先)	
	14:00	ディンケ村人民委員会表敬訪問	
	14:30	幼稚園視察	
	15:20	ディンケ村人民委員会へ挨拶	
	15:30	ハノイへ移動	
8/6 (土)	8:00	チルドレンズ・バレス 概要説明、質疑応答、各クラス見学	Hoa Binhホテル
	10:00	SOS Village (孤児福祉センター) 概要説明、質疑応答、施設見学	
	11:30	昼食	
	14:00	歴史博物館	
	15:30	美術館見学	
	16:30	文廟見学	
8/7 (日)		資料整理等	Hoa Binhホテル
8/8 (月)	7:00	イエン・バイ省ルック・イエン県へ移動	イエン・バイ省 ルック・イエン県
	12:00	昼食	
	13:30	ミン・スアン村へ移動	
	14:00	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンによるイエン・バイ省「総合的子供の発達事業」(NGO連携案件)プロジェクト調整委員会とのミーティング	
	14:30	プロジェクト現場視察、意見交換、質疑応答	
	17:00	夕食	
8/9 (火)	7:30	イエン・バイ省ムオン・ライ村へ移動	Hoa Binhホテル
	8:30	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンによるイエン・バイ省「総合的子供の発達事業」プロジェクト現場視察、意見交換、質疑応答	
	11:00	昼食	
	13:30	ハノイへ移動	
8/10 (水)	8:30	ハノイ市内ティン・クエン小学校見学 授業見学・学生との交流会、教師との意見交換	Hoa Binhホテル
	11:00	昼食	
	12:30	ハタイ省へ移動	
	14:00	ハタイ省におけるグエン・チャイ中学校見学 授業見学・学生との交流会、教師との意見交換	
8/11 (木)	8:00	日系Vietnam Stanley Electric Co., Ltd 概要説明、質疑応答、工場視察	
	11:30	昼食	
	14:00	民俗学博物館見学	
	16:30	日本大使館表敬	
	17:00	JICA事務所での報告会	
	23:15	ノイバイ空港→成田空港	